

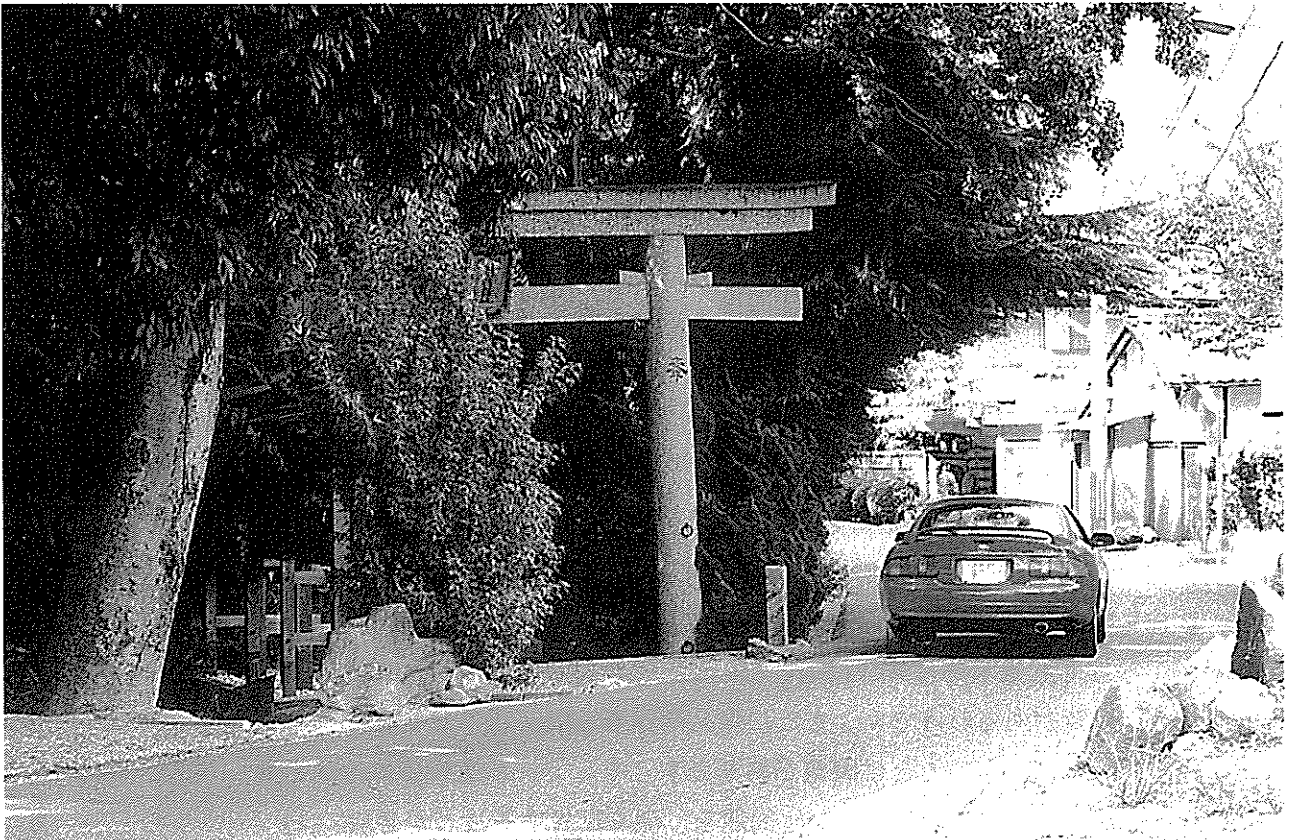
# 共生

奈良県生協連

2002年10月

NO.46

## 万葉のいぶきを求めてー (11)



歌姫街道・添御県坐神社

佐保<sup>さほ</sup>過ぎて 奈良<sup>なら</sup>の手向<sup>たむけ</sup>に 置く<sup>ぬさ</sup>幣<sup>いも</sup>は 妹<sup>め</sup>を 目<sup>め</sup>離れ<sup>か</sup>ず 相見<sup>あい</sup>しめとぞ  
長<sup>なが</sup> 屋<sup>やの</sup> 王<sup>おおきみ</sup>

昭和63年1月、平城宮跡の南外れから長屋王邸跡が発掘され、天平時代の皇族生活が明らかにされ話題になった。その長屋王の詠んだ歌である。

「佐保を過ぎて奈良山を越え、山城に向かう時いつも峠で神様に幣を供え願うことは唯一つ。いつも妻と一緒におられますように……」そう祈りを捧げた峠の神様は平城宮の真裏から北に向かう歌姫街道沿いの添御県坐神社であったろうか。ここからだらだらと山を下ると山城へとつづく。今は車が一台やっと通れる程度の細い道をひんぱんに車が行き交う。

この長屋王は天武天皇の孫であり、妻の吉備内親王の姉である元正天皇の名補佐役であったが光明皇后の立后にからむ政争に巻き込まれ天平元年(729)2月に自刃させられた。長屋王邸はその後「そごう百貨店」となったが倒産し、現在に至るも跡地の利用が決まっていない。王が没して1270余年、今も波乱を呼ぶ人ではある。

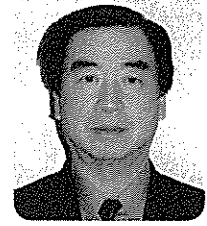
# 2002 生協強化月間を着実に取り組もう

—「食品の安全」を確実なものにしていくために—

奈良県生活協同組合連合会

専務理事 瀧川

潔



2002年度の生協強化月間が始まりました。この「月間」は昭和23年（1948）、第2次世界大戦が終了して日本に民主主義の改革が始まり消費生活協同組合法が施行されたことを記念して開始されたという、長い歴史をもっています。

「戦争の世紀」といわれた20世紀が終わり21世紀になりましたが、ブッシュ大統領が好戦的な発言を繰り返す昨今の情勢では、なかなかこの「忌まわしいシッポ」は断ち切れそうにありません。世界経済の悪化のなかで、最近大統領は「米国の経済の活性化には軍需生産の拡大も必要」とし「単独でもイラクを攻撃する」方向を強めています。「経済のために戦争を起こす思想」は、20世紀に歴史を逆戻りさせる亡霊・「死神」の思想です。21世紀の私達は、このような動きに世界的な平和の包囲網で対抗することが必要です。わが「ライオン首相」にも、イラク攻撃を支援するのではなく、せめて「単独はおやめなさい」くらいの発言をいただくようにすべきでしょう。日本の生協の「平和とよりよき生活のために」のスローガンが生まれた歴史を思い返し、くらしの基礎に平和があることの意味を、私達の運動の基礎として踏まえることが大切です。

さてこの秋は、生協にとっても重要な「食の安全」での国の動きを、しっかりと根付かせ、組合員とともに「食の安全」を確実なものにしていくために、極めて重要な状況となっています。一昨年来の食の安全「署名運動」が、雪印問題やBSE問題での情勢の後押しも受けて、今まで業界寄りであった行政の姿勢を消費者・生活者に軸足を置く姿勢に大きく転換させてきました。BSE問題から昨今の食肉業界での偽装問題の広がりや、食品添加物問題、農薬問題など、いずれをとっても基本的には、「国民（生活者）の食の安全がしっかり保障されていない」行政のあり方に問題があるわけです。また、食品業界も「生活者の命を育む」という理念を忘れ、業界倫理が確立していないことに問題があります。そして、私達生協にとっても、コープ商品に偽装や仕様違反を許してしまったという問題を、深く反省することが必要です。

私達は、今展開されているこのような食の安全をめぐる動きをしっかりととらえ、国の動きに応えるとともに、県行政に対しても一昨年来の活動をさらに強めて、県民の食の安全を確実なものとする県民参加の組織の設置、県の基本方針の策定、諸条例の検討に、多くの県民のみなさんご協力をいただきながら運動を進めて行く必要があります。

この10月26日は、奈良県生協大会が猿沢荘で開催され、全国消団連前事務局長であり雪印乳業の社外取締役となられた日和佐信子氏の講演を基調講演とし、近畿農政局、県、そして生産者であるJAならけん、ならコープのリレートークが実施されます。ぜひ多くのかたがたの参加をお願い申し上げます。

さらに、くらしをめぐる景況はあいかわらず厳しく、各種企業の存亡を賭けた統合も続き、各種の生協の経営にとって重要な課題が山積する状況です。生協の運動は、事業・経営の確立なくしては成り立ちません。この2002生協強化月間を、真に生協の強化に導くことができるよう、組合員のみなさんとともに、着実な前進を積み上げて行きましょう。

# 第13回 奈良県生協大会

参加費無料  
どなたでも  
ご参加下さい

## みんなで考えよう

## 食品の安全強化に向けて



国内でのBSE発生以降、一連の食品表示の偽装、無認可添加物や無登録農薬の使用、基準値を大巾に超える中国産農産物の残留農薬等々、消費者の食品の安全への不安と不信が頂点に達しています。何故、このようなことが次々と起こるのか、今後の食品の安全確保に向けてどうあるべきかをともに考えましょう。

### 基調講演

#### 「食の安全を確保するために -農場から食卓まで-」

日和佐信子氏

- 経歴 ・「BSE問題に関する調査検討委員会」(厚生労働大臣及び農林水産大臣の諮問機関) 委員  
消費者代表として関わり、BSE問題に関する調査検討委員会報告(平成14年4月2日)の提言を行い、それを受けて、「今後の食品安全行政のあり方について」の政府とりまとめが行われました。  
・全国消費者団体連絡会前事務局長  
・雪印乳業株式会社社外取締役

### リレートーク

#### 「今後の食品の安全強化に向けた施策について」

コメンテーター  
日和佐信子氏

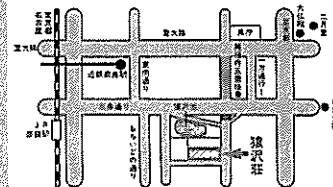
パネリスト

- |                   |        |
|-------------------|--------|
| 農林水産省近畿農政局企画調整部長  | 永江啓一氏  |
| 奈良県福祉部健康局生活衛生課長   | 中岡富美一氏 |
| 奈良県農業協同組合常務理事     | 米沢英彦氏  |
| 市民生活協同組合ならコープ常任理事 | 辻 由子氏  |

- と き 2002年10月26日(土)  
10時00分～13時00分
- と ころ 猿沢荘(奈良市池之町3 TEL 0742-22-5175)
- プログラム
 

9:30	開場
10:00	開会 主催者あいさつ 来賓祝辞
10:10	基調講演
11:30	リレートーク
13:00	終了
- 主 催 奈良県生活協同組合連合会
- 後 援 食の安全懇談会

● JR奈良駅より徒歩20分 ● 近鉄奈良駅より徒歩10分



#### 問い合わせ

〒630-8136 奈良市窓の庵一丁目2-2  
奈良県生活協同組合連合会  
TEL 0742-34-3535  
FAX 0742-34-0043

## もくじ

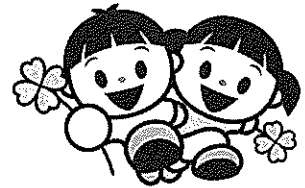
- |                         |          |                |
|-------------------------|----------|----------------|
| 2002 生協強化月間を着実に取り組もう……② | 福祉……………⑧ | 広がる協同・くらしの輪……⑫ |
| 第13回奈良県生協大会案内……………③     | 環境……………⑩ | つながる連帯・友好の輪……⑭ |
| 平和……………④                | 生活・文化……⑪ | 県連日誌・お知らせ……⑯   |

# 平和

## 「ピースリレー2002 in なら」を終えて

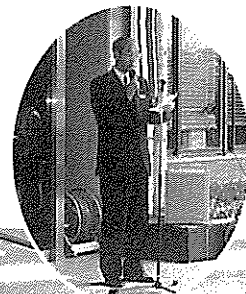
—みんなで支えた5日間474人が参加しました—

5月6日、東京夢の島を出発した「ピースリレー2002」は、1200kmを歩き続け、8月4日、広島平和公園にゴールしました。ピースリレーは、全国の生協がそれぞれの地域で、平和を願う様々な取り組みをつなげ、8月のヒロシマ・ナガサキへ結実させる取り組みです。「ピースリレー2002 in なら」では、「世界中から戦争や紛争、テロをなくそう」「被爆・戦争体験の継承をすすめよう」「世界の子どもが安心して暮らせるようにしよう」をメッセージとして、いま私たちが暮しているこの地球上から戦争も核兵器もない世界を実現するために、平和への想いや願いを寄せ合い、行進やピースのつどいに474人が参加しました。



▽6月27日(木) 10:00 大和郡山市役所で出発集会を開きました。企画政策部吉村次長よりメッセージをいただき、青葉台住宅経由でコープいまごに向け行進し、到着後「ピースのつどい」を持ちました。いまご店会場では、中部ブロック・地域委員会よりTシャツや寄せ書きが集められていて、みんなの支えを実感しました。また中部ブロックからは治道トマト、コープいまご委員会からはバナナのヨーグルト添えの接待を受け、大感激でした。

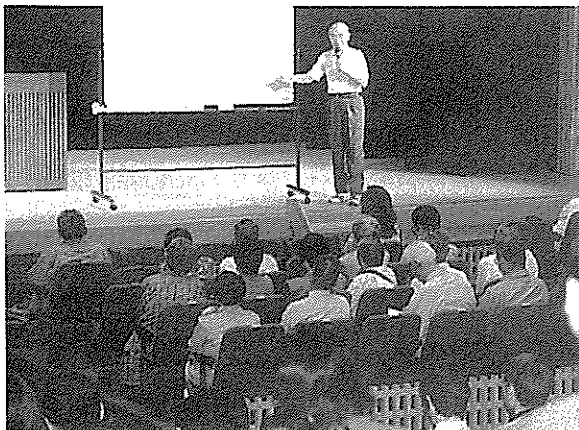
▽6月26日(水) 12:30 般若寺において、京都からの引き継ぎ集会が行われた後、県庁～市役所経由でならコープ本部にむけて県内行進がスタートしました。途中、県庁前で県国際課一箭主幹より歓迎のことばを、奈良市役所では総務部中井参事より激励のあいさつをいただきました。本部到着時、職員の歓迎を受け終了集会を行いました。



▽6月28日(金) 10:00 JR大和高田駅にて出発集会、大和高田市役所、竜王宮経由でコープたかだに向け行進しました。市役所では企画調整部松田次長よりメッセージをいただき、コープたかだでの「ピースのつどい in たかだ」では大月さんの被爆体験談や子ども達の作文が参加者の胸を打ちました。ここでもまた、各委員会の参加協力に支えられました。



▽6月29日(土) 「ピースのつどい in かしはら」が、社会福祉総合センターに於いて開催されました。榎原市長のメッセージを代読し、「わかきさの会」市原氏による被爆証言に聞き入り、その後映画「核のない21世紀を」上映、同時に子ども向けに短編アニメ映画4本を上映しました。昼から予定していた平和のための史跡めぐりは天候の都合で残念ながら実施できませんでした。



▽6月30日(日) 雨の中9:30三郷町コミュニティセンターにて出発集会、三郷町福森総務部長より歓迎のメッセージをいただき、王寺町へ向かいました。県内行進終了集会では王寺町田中総務部長より激励のことばをいただきました。両町では日曜日にも拘らず、お茶の接待までいただき、「広がれ平和! 平和の想いをみんなで大阪に届けましょう」と、元気いっぱい熱い想いで大阪へと引き継ぎました。



### 報告集会

8月26日、コープみみなしにおいてピースリレー報告集会が開催されました。中部・高田ブロックの取組み報告、県内でのピースリレーの取組みや子どもたちが参加したヒロシマの旅等がビデオで紹介されました。





# 2002「ヒロシマの旅 8/5・6」参加レポート

「2002 ならコープ広島の旅」はじめての公募に家族で参加しました!



委員会活動をして4年目。毎年奈良県内の平和行動に参加し、ヒロシマ行動は報告集会の話聞いて、行きたいと思っていました。今年、子供が小学5年生と3年生になり、学校で戦争について学習したことで、被爆地広島平和公園での式典を実際に見たり、被爆体験を聞いたことにより子供達なりに平和について何かを感じ取ってくれたらと思い参加しました。

広島駅を出るなり「広島は街ってきれいし、すごいね!!」と言う子供達の驚きの第一声でした。「虹のひろば」オープニングの「アオギリのうた」は、小学生の女の子が作詞作曲したもので、平和の願いがこめられた詩ときれいな歌声に私も娘達も心をうたれました。原爆資料館では、当時の恐ろしい地獄のような話に胸が痛くなりました。下の娘が恐くて見れないと眼を伏せてしまう展示もあり、子供なりに原爆や戦争の恐ろしさを感じ、様々な思いを話してくれました。

6日は平和記念公園へ。全国からきた人、団体が多い事を知り驚き、この人達一人一人の平和への祈りが、平和の鐘の音と一緒に響きわたるようになって感じました。午後から、「舟入むつみ園」で聞かせていただいた被爆体験は、聞くだけで胸がつまる悲しい話でした。戦争の悲惨さを、そして現在平和である事の大切さや有

難さをもっと多くの人に伝えていく必要があり、平和活動を通じて出来ることを少しずつでもしていきたいと思いました。この二日間の広島は、私も娘と一緒に学び考えさせられる良い旅になりました。

(ならコープ組合員 入口直子)

私は初めて広島に行きました。資料館の中に入って、おばさんが説明してくれてとても分かりやすかったです。大変勉強になりました。資料館の中を見ていくと黒こげになったお弁当や、その時着ていた服がボロボロになっているのを見ました。私は、なぜ戦争するのかな、悪い事もしていない人が殺されるのかな、戦争は恐いな、と思いました。次の日「禎子像」に奈良から持って行った千羽鶴を飾れてうれしかったです。その後、舟入むつみ園で、被爆体験をしたおばあさんから、被爆した時の話を聞いて、「戦争はぜったいにしてはダメだ」と思いました。

(入口 梓 小5)

はじめて広島にいきました。私は道路を走る電車を見たときびっくりしました。のってみるとガタガタとゆれました。市電にのれてうれしかったです。あとは、目の前で原ばくドームを見て「原ばくが落ちたらこんなふうになるんだな」と思いました。見たかった「さだこの像」も見れてうれしかったです。資料館はこわかったです。でも、「戦争はいやだなー」と思いました。2日目に行った舟入むつみ園で、おばあちゃんから、原ばくが落ちた時の話を聞いて「かわいそうだな。戦争はぜったいにしてはいけない。」と思いました。広島を見学して、たくさん勉強できてよかったです。友だちもたくさんでき、うれしかったです。とてもよい2日間でした。

(入口 望 小3)

# 「平和と人道の世紀を」

## 平和宣言

57年前、「この世の終り」を経験した被爆者、それ故に「他の誰にもこんな思いをさせてはならない」と現世の平和を願い活動してきた被爆者にとって、再び辛く暑い夏が巡ってきました。

一つには、暑さと共に当時の悲惨な記憶が蘇るからです。

それ以上に辛いのは、その記憶が世界的に薄れつつあるからです。実体験を持たない大多数の世界市民にとっては、原爆の恐ろしさを想像することさえ難しい上に、ジョン・ハーシーの『ヒロシマ』やジョナサン・シェルの『地球の運命』さえも忘れられつつあります。その結果、「忘れられた歴史は繰り返す」という言葉通り、核戦争の危険性や核兵器の使用される可能性が高まっています。

その傾向は、昨年9月11日のアメリカ市民に対するテロ攻撃以後、特に顕著になりました。被爆者が訴えて来た「憎しみと暴力、報復の連鎖」を断ち切る和解の道は忘れ去られ、「今に見ていろ」そして「俺の方が強いんだぞ」が世界の哲学になりつつあります。そしてアフガニスタンや中東、さらにインドやパキスタン等、世界の紛争地でその犠牲になるのは圧倒的に女性・子供・老人等、弱い立場の人たちです。

ケネディ大統領は、地球の未来のためには、全ての人がお互いを愛する必要はない、必要なはお互いの違いに寛容であることだと述べました。その枠組みの中で、人類共通の明るい未来を創るために、どんなに小さくても良いから協力を始めることが「和解」の意味なのです。

また「和解」の心は過去を「裁く」ことにはありません。人類の過ちを素直に受けとめ、その過ちを繰り返さずに、未来を創ることにあります。そのためにも、誠実に過去の事実を知り理解することが大切です。だからこそ私たちは、世界の大学で「広島・長崎講座」を開設しようとしているのです。

広島が目指す「万人のための故郷」には豊かな記憶の森があり、その森から流れ出る和解と人道の川には理性と良心そして共感の船が行き交い、やがて希望と未来の海に到達します。

その森と川に触れて貰うためにも、ブッシュ大統領に広島・長崎を訪れること、人類としての記憶を呼び覚まし、核兵器が人類に何をもたらすのかを自らの目で確認することを強く求めます。

アメリカ政府は、「ボックス・アメリカーナ」を押し付けたり世界の運命を決定する権利を与えられている訳ではありません。「人類を絶滅させる権限をあなたに与えてはいない」と主張する権利を私たち世界の市民が持っているからです。

日本国憲法第99条は「天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ」と規定しています。この規定に従うべき日本国政府の役割は、まず我が国を「他の全ての国と同じように」戦争のできる、「普通の国」にしないことです。すなわち、核兵器の絶対否定と戦争の放棄です。その上で、政府は広島・長崎の記憶と声そして祈りを世界、特にアメリカ合衆国に伝え、明日の子どもたちのために戦争を未然に防ぐ責任を有します。

その第一歩は、謙虚に世界の被爆者の声に耳を傾けることから始まります。特に海外に住む被爆者が、安心して平和のメッセージを世界に伝え続けられるよう、全ての被爆者援護のための施策をさらに充実すべきです。

本日、私たち広島市民は改めて57年前を想い起し、人類共有の記憶を貴び「平和と人道の世紀」を創造するため、あらん限り努力することを誓い、全ての原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を捧げます。

2002年（平成14年）8月6日

広島市長 秋葉忠利

## 「ならコープの介護保険事業」ってなに？

### 【なぜ、ならコープが取り組むの？】

現在の日本は65歳以上の高齢者は人口の16.4%ですが、2025年には25%が65歳以上の高齢者になり、要介護者は500万人を超える見通しになっています。また、奈良県における高齢者（65歳以上）人口は、2002年2月末段階で、252,022人で、要支援または要介護認定の方が31,982人と介護保険を利用される方が年々増え続け、介護保険サービスへの要望はますます高まっています。

ならコープは、組合員さんの支援で1999年に福祉活動の拠点となる、特別養護老人ホーム「あすなら苑」を設立しました。この間、あすなら苑を拠点にしてヘルパー養成研修講座を実施したり、有償ボランティア活動として新たに福祉サービスを開始するなど、組合員とともにその福祉活動の充実と輪を広げてきました。これらの活動のおかげで、いよいよ介護保険事業の取り組みを始めることができるようになりました。

### 【具体的にどのような内容ですか？】

介護保険を受けるにあたり、申請代行・市町村から委託を受けた場合の訪問調査・ケアプラン作成等をおこなう「居宅介護支援事業」とヘルパー派遣をおこなう「訪問介護事業」の2つの事業を合わせておこないます。

### 【事業の開始は？ サービスの内容は？】

9月より居宅介護支援事業、10月より訪問介護事業をスタートしました。

サービスの種類	内 容
介護	食事、排泄、衣類着脱、入浴、車椅子移乗及び移動、外出等の介助
家事	そうじ、洗濯、買い物、食事作り

\*サービスは介護保険利用者本人が対象です。

### 【利用料金はどのようになるの？】

介護保険利用金額の1割をご負担していただきます。支払い方法は銀行引き落としやコンビニエンスストアからの振込みもできます。

### 【介護保険を受けられない方へのサービスはあるの？】

現在、ならコープでは有償ボランティアの活動で、「福祉サービス」と「たすけあいの会」の2つの在宅サービスがあります。

「福祉サービス」はならコープ独自のオリジナルサービス（介護・家事・子育て・生活支援）で、「たすけあいの会」は困った時のたすけあい制度（家事・子育て）です。介護保険のサービスを受けられている方で、フルにサービスを使い切った方でも自己負担にはなりますが、これらのサービスを併用することができます。

\*サービスの内容及び利用料金等、詳しくは、ならコープ ホームヘルプサービスへお問い合わせください。

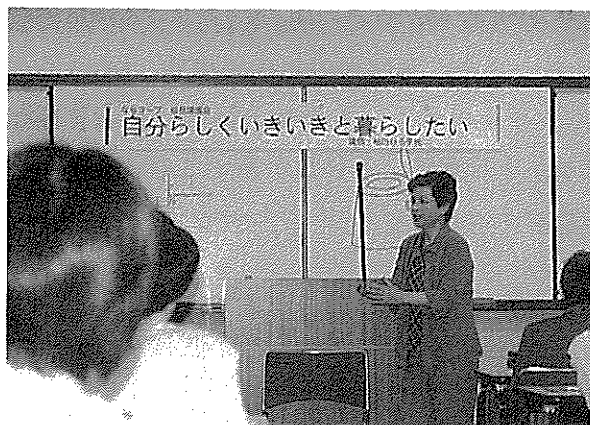
☎ 0742 - 33 - 9882

<ならコープ運営通信 8月号抜粋>



# 地域に福祉の輪を広げよう！

## 福祉講演会



9月17日(火)、「いつまでも自分らしく、いきいきと暮らしたい」のテーマで奈良県社会福祉総合センターにおいて開催されました。講師の松田ひろ子さんは、高齢者の生活道具を取扱う(有)西陣おたっしゃ本舗の代表で、併設する高齢生活研究所の主任研究員でもあります。御両親を介護された経験を通して「排泄だけはいつまでも自立していたいと願う気持ちや、住み慣れた家で暮らしたいと思う気持ちを尊重する」「特定福祉用具はいろいろなお店をまわり、よく考えて選ぶ」「朝一番の尿量を知ることにより、本人に合ったおむつや失禁パンツが選べる」「介護者は高齢者自身ができることにまで取立て手を貸さない」等、「高齢者が生きる気力を手放さない介護」についてのアドバイスに参加者はうなづくことしきり。これまでは機能優先だった福祉用具も最近はファッション性に富んだものが増えたとのこと。会場に並べられたいろいろな用具を実際に手に取って見ることができました。(ならコープ主催)

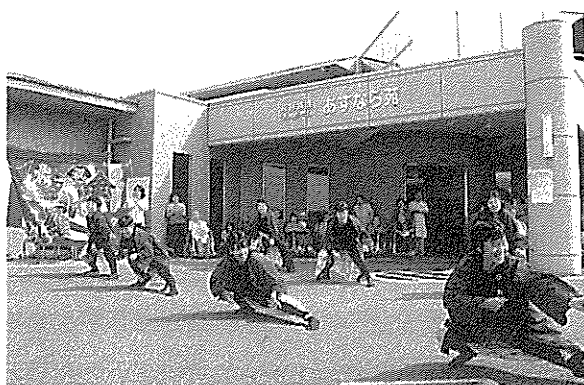
## 第3回 あすなら祭

9月21日(土)、特別養護老人ホームあすなら苑において、3周年祭が約600人の参加で開催されました。オープニングセレモニーで、あいさつの後、生駒エリア組合員から入居者へ折鶴の贈呈が行われ、満席のホールでは、ハートフルコンサート「松本真理子・マリンバの世界」が奏でられました。イベント広場ではシニアシミュレーションの体験コーナー、足操術、お茶会コーナー、各種団体による手作り小物・不要品等たくさんのおバザーや模擬店などで賑わい、最後に、ロックソーラン「トマトマ」によるバサラやソーラン節風オリジナルのおどりで、組合員、入居者、ご家族、地域の方々みんなが楽しい1日を過ごしました。

(あすなら祭実行委員会主催)



上田市長飛び入り共演



ロックソーラン

# 環境

## 「持続可能な開発に関する世界首脳会議（環境・開発サミット）」

8月26日～9月4日南アフリカのヨハネスブルグで開催され、191の政府首脳・関係者、NGO、市民団体から約6万人が参加し、「世界中の人々と地球を受け継ぐ世代に対して、持続可能な開発を実現する」など34項目からなる「ヨハネスブルグ宣言」（政治宣言）と、152項目の具体策を盛り込んだ「実施計画」が採択されました。また、各国政府や国際機関、NGOなどが独自に取り組む「約束文書」がまとめられました。今回のサミット全体の評価は政府首脳とNGOで大きく違っています。9月10日付毎日新聞では「妥協による合意が多いとの批判がある中で、人類が新たな一歩を踏み出すための方策を何とかまとめあげた。」としています。

### ＜実施計画の概要と評価の主な相違点＞

日本政府	NGO (CASA)
再生可能エネルギーの普及拡大については、持続可能な開発のためには政策的な柔軟性の確保が必要とする我が国の主張を踏まえ、全世界又は先進国一律の数値目標を設定することなく、自主性を尊重しつつ、再生可能エネルギーが全世界に占める割合を十分に増大させることで合意を見た。	エネルギーの目標数値や実施時期が全く記述されないだけでなく、むしろ、化石燃料の推進、大型水力発電の推進など、既存のエネルギー技術の促進を加速するものとなっている。さらに、文章には明記されていないが、原子力発電推進の懸念も指摘されている。－(中略)－ 貧しい人々が自然エネルギーにアクセスする機会を妨げ、途上国よりクリーンなエネルギー技術への燃料転換を阻害し、将来世代にわたって深刻な影響を及ぼす地球温暖化を促進し、持続可能な社会を実現する際の大きな障害となるものである。
京都議定書の早期発効への取組が言及されるべく調整に努め、上述のとおり、「京都議定書の発効に向けてそのタイムリーな締結を強く求める」旨の合意をまとめた。	京都議定書の「批准をしている国がまだ批准していない他国に強く批准を働き掛けること」が含まれたものの、発効の時期については明記されなかった。

## 環境育成ゲーム エコロッチ誕生

「…地球はこのまま放っておくと、増え続けるごみに埋もれ、温暖化によって気候が変わり、緑が少なくなって空気が汚れ、やがては人間が住めない星になってしまう。この緊急事態を救うために、救世主エコロッチを育てよう。ゲームを始めると、君にエコロッチのたまごが渡される。君には、ゲームの司令に取り組んで、立派なエコロッチを育ててもらいたい。君が頑張る分だけエコロッチのレベルが上がっていくぞ。頑張ってくれたまえ…」



エコロッチは、ならコープとコープしがが共同で開発した「環境育成パソコンゲーム」です。「冷蔵庫は開けたらすぐ閉めた」など、お子さんにできる“エコライフチェック”を基本に、楽しみながら環境に関心をもってもらうために作成しました。毎日10項目をチェックし、その点数によって「エコロッチ(モンスター)」が育っていきます。ならコープホームページ(<http://www.naracoop.or.jp/>)「さんぽみち」をご覧ください。

＜あおがき8月号抜粋＞

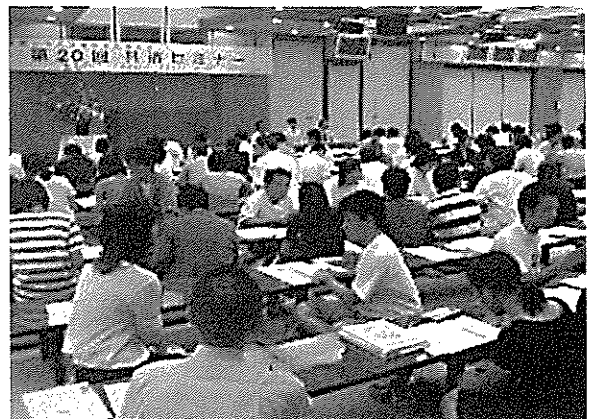
## 第20回 全国大学生協連 — 共済セミナー(福島)に行ってきました —

奈良工業高等専門学校生協 学生委員 衛藤 聖

なかなか濃密な3日間でした。何より興味深かったのが、各大学の方が実際に取り組んだことを報告&紹介してくれた分科会と、自分で実際に体験させてもらったコープジャムです。分科会は、「自転車事故」関連のものを選びました。自分にとって一番身近で、また高専での給付事例の中でもずば抜けて多いケースだったためです。そこでは二つの取り組みの紹介してもらいました。自転車屋さんにも協力してもらって、タダで点検、修理も良心的な価格でしてくれる「自転車の無料点検」と、自動車学校の人と共同で行われた、事故の時の応急処置の指導や車などの運転を体験する「Safety Drivers Lesson」です。すごく、すごくおもしろそうでした。この二つの取り組みに共通して言えることは、「おもしろそう(内容が充実している)」、「自分たちでできないところは、外の人と協力し補い合って作りあげている」「宣伝や役割分担がしっかりしてある」ということだと思います。とても参考になりました。おみやげに頂いた手作りのパンフレットも親しみやすく、自分たちでもチャンスがあれば、ぜひぜひやってみたいと思いました。コープジャムでは、体力テストなどの様々な企画を実際に体験させてもらいました。アルコールのバッチテストやタバコの「やにけん」なんかは、用具や方法がシンプルで自分たちでも簡単にできそうなお手軽さが魅力でした。ただ、検査自体がシンプルなかわりに、その分結果に対する適切なアドバイスをしなければならないということも、このコープジャムで学んだことです。例えばアルコールのバッチテスト。いくらここで「お酒に強い」という結果が出たからといってイコール「たくさん飲んでも大丈夫」というわけではないのです。テストの説明をしてくれた大学生の方は、たった5分のテストの結果に対してまるまる15分間ぐらいアルコールについて力説して下さいました。あのよう、伝えたいという情熱をメラメラと燃やすことも何か企画するときには最重要チェック項目なのではないで

ようか。彼の姿勢はとても印象的で見本にしたいです。分科会もコープジャムも、やっている内容は全く違うけれどイベントとして「ああ、楽しかった」で終わらせるのではなく、何かをそこから学び取って日常の中で生かしてほしいという熱意が感じられます。どんなにすばらしい企画を立てても、やりっぱなしで生かされないのでは意味がないのだろうなと思いました。そして、これは分科会で説明しておられた大学生の方の受け売りなのですが、「単発では意味がないから、取り組みを日常に続けていけて初めて効果も出るし、もしもの予防もできる。」……なるほど!

最後に今回のセミナーでの最大の収穫は、これらの活動は一見様々な形をしているように見えるけれど、根っこは全て共済の予防活動の一環であるという話を聞いたときに感じたものです。共済も、その一環である予防&提案などの活動も、源となっているのは、自分の隣で笑っている人、仲のいい友達、元気なクラスメイト達、おなじ学校に通う仲間、そういった自分のまわりを取り巻く仲間達がいつも元気であるように、痛いこと苦しいめにあわないでほしいという素朴で切実な願いなんじゃないかと、ふと、そんな気がしたのです。役に立つ話や貴重な体験もできたけれど、それ以上になんだか温かいものに触れたかのような、そんな気持ちになった3日間でした。



# 広がる協同・くらしの輪

## 県議会議長との懇談会

8月14日県議会議長室において、服部恵竜議長と懇談しました。6月議会で新しく就任された挨拶を兼ねて訪問し、生協の事業や組合員の諸活動についての報告を行いました。



## 民主党・市民連合との懇談会

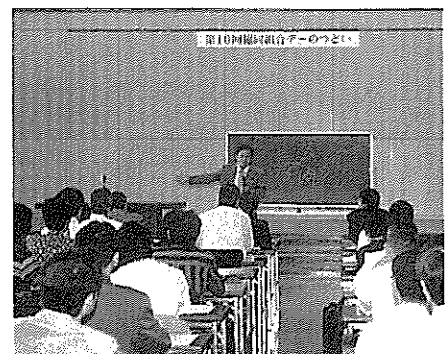
当連合会では、食品の安全をテーマに、県議会各党派との懇談に取り組んでいます。9月20日は、民主党・市民連合（山下・高柳・田中議員）との懇談を行いました。生協側からは、食品安全委員会など国の動き、地方行政での食品安全強化に向けた全国の実況、奈良県での食の安全懇談会の取り組みについての報告を行い、議員からは、中国産農産物の残留農薬や県下での無登録農薬使用問題などの報告があり、最近の食品の安全をめぐる状況について意見交換を行いました。



## 第10回奈良県協同組合デーのつどい

7月8日（月）農協会館において、農協、森林組合、生協から約80名の参加で開催しました。高田委員長の主催者あいさつ、農業経営課川端課長（林政課大谷課長補佐、県民生活課岡本参事 臨席）の来賓あいさつの後、「食と笑顔と心の持ち方」と題して神谷料理研究所神谷信将氏の講演が行われました、つどいの後、奈良県協同組合連絡協議会委員会が開催され、事業報告、事業計画案が承認され、協同組合間の協同を強めることが確認されました。

（奈良県協同組合連絡協議会主催）



## 第18回平和のつどい

8月3日、「イスラエル・パレスチナに希望と平和を」のテーマで日本聖公会奈良基督協会シオンホールにおいて開催されました。ジャーナリスト小田切拓氏が、パレスチナのガザ地区南部をたびたび訪れ、自らが目にした現地の状況を映像にし、そのビデオをもとに死と隣合わせの生々しい様子が報告されました。参加者からは多くの質問が出され、日本で目にする情報からは正確な状況がつかめていないことを感じました。

（奈良YMCA主催）



## 地球温暖化防止フェア

8月9日なら100年会館において開催されました。川の水を持参して汚れを調べてもらったり、わかりやすく説明されたパネルや環境商品をいろいろ見たり、大人も子どももみんな地球温暖化防止についてじっくり考える1日となりました。午後からはNPO法人環境市民代表理事 杵本育生氏の基調講演「地球温暖化防止におけるグリーン購入の意義」と「お買い物はエコな商品!？」のテーマでパネルディスカッションが同時進行で行われ、ならコープからもパネラーが参加しました。(奈良県 奈良県環境県民フォーラム主催)

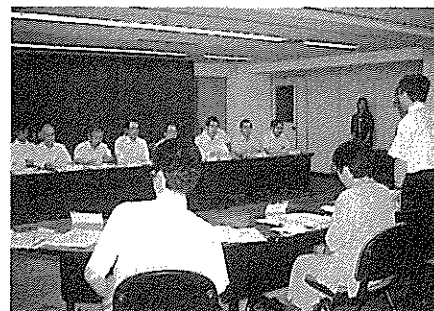


## 大阪ガス経営問題懇談会

9月6日大阪ガス本社ビルにおいて開催しました。

事前の質問事項に対する回答書の手渡しの後、平成13年度決算の概要、経営効率化の取り組み、環境問題の取り組みについてご報告いただいた後、意見交換を行いました。

(関西消費者団体連絡懇談会主催)



## 第5回食の安全懇談会

9月4日あすなら苑において開催しました。県生活衛生課土田副主幹より食品衛生に係る県の取り組み状況や庁内連絡会の状況についての報告と意見交換を行いました。また、ならコープの取り組み状況について、「今後の商品事業のあり方を検討する委員会」の答申について報告が行われました。



## 第14回近畿地区生協・行政合同会議

9月11日舞子ビラ神戸において、「生協の社会的役割と生協行政の課題」をテーマに、厚生労働省、近畿厚生局、日生協、各府県の行政担当者・府県連役員の計46名の参加で開催しました。各代表のあいさつの後、生協の課題と連絡事項について、日本生活協同組合連合会活動について、各府県連報告、各府県行政報告、各報告についての意見交換が行われました。意見として県域問題、職域(大学)生協の組合員資格問題、新生協設立認可に係る問題等が出されました。



小倉代表あいさつ

# つながる連帯・友好の輪

## 奈良労済生協

－全労済奈良県本部第26回・

奈良労済第44回 通常総代会を開催！－

去る7月30日（火）に奈良県新公会堂において全労済奈良県本部第26回・奈良労済第44回の通常総代会を開催いたしました。105名（内委任33名）の総代出席のもと、繁田県生協連会長をはじめ、多数の来賓の方々からご挨拶をいただきました。2001年度（2001年6月～2002年5月）は、「全労済21世紀ビジョン」に基づき、奈良県本部として「第2期計画」の策定を行い ①奈良労済創立40周年記念行事を通じて県本部の更なる発展 ②県下3地区に地区推進会を設置 ③重点共済の推進（増加率件数2.40％・口数6.34％＜2ヵ年＞）④効率的な事務局体制を目指す。ことを目標として活動を行いました。結果、全制度件数で2.93％・口数で6.62％の増加率となりました。

2002年度（2002年6月～2003年5月）は「第2期計画」の2年目として補強策を策定いたしました。特に本年度は昨年の創立40周年記念行事の一環として設立しました「地区推進会」の更なる充実をはかり、事業推進活動の具体化をおこない事業目標の達成をめざしていきます。また、生活保障設計運動は研修会等を通じて浸透をはかり、新制度「団体生命移行共済」・「新マイカー共済」の推進を通じて共済の総合利用をさらに進めていきます。そして、離・退職者対策として地域での受け皿と組織作りに着手していきます。

以上、2001年度報告および2002年度補強策について満場一致でご確認いただきました。

役職員一同、事業と運動の更なる発展に向けて邁進する所存でございますので、これからもご理解・ご協力のほど、よろしく願い申し上げます。  
（推進2課 上田）



和崎純二理事長あいさつ

## ならコープ

－「きんきれんたい」の取り組みが

すすんでいます－

今年1月に、コープしが、京都生協、おおさかパルコープ、大阪いずみ市民生協、大阪よどがわ市民生協、わかやま市民生協とならコープの7生協による「近畿地区事業連帯推進協議会」が発足しました。近畿の7生協の総事業高は約2400億円。組合員数は143万世帯になり、このスケールをもって「商品の共同仕入・共同開発」「物流の合理化」「店舗事業での連帯」「品質管理の向上」をすすめていくこととなります。

さて、気になる「商品開発」ですが、現在は30品目余りがリストアップされています。価格引き下げ、優良産地との契約、上級原料への切替えなどのメリットを追求しながら、各生協の組合員参加のあり方の検討と合わせて、今期中には「第1号商品」が誕生する見通しです。

（広報課 青木）



## 奈良女子大学生協

秋茜（赤とんぼ）が飛ぶ季節になってきました。それにしても暑かったですねー。

夏場の試験期（7月8日～8月2日まで）夕食営業実施。1日150名の利用で6時から7時食堂ホールに笑顔が溢れました。

暑い中、奈良女生協職員が3人増えて汗だくで日夜研修に励みました。と言うのも一昨年に続きインターンシップの学生さん3名、(同志社大学4回生経済学部 船戸裕介君、同志社女子大学現在社会学部3回生 久保友美さん、滋賀大学経済学部3回生 三好祐美子さん)が、8月26日～9月6日まで、自分探しの勉強にいられていたからです。

附属中等教育店と合同の職場会議で秋へ向けて協力して、生協を作って良かったと思える楽しいお店にしていこうとしています。生徒達(GGF)も工繊大・京大の生協に見学に行き、色々な情報もらいGGF新聞のニュースの準備をしています。(専務理事 竹内)

## 大阪樟蔭女子大学生協

この夏、学生もいろんな体験を経て10月以降の取り組みにイメージを膨らませています。学生の食生活、10月19・20日の学園祭(若樟祭)など精力的に準備をすすめています。今年の学園祭には生協委員を卒業したOGも模擬店を出店してちょっとした同窓会も行われることにもなりました。10月の活動スケジュールは9月28・29日の生協委員の合宿にて最終決定されました。活動スケジュール等は<http://hal.seikyou.ne.jp/home/shoincoop/>にて、ご覧いただけるようになりました。

(店長 羽賀)

## 奈良県立大学生協

学生委員会の活動としては7/12にサマーパーティを開催しました。参加者は去年よりも多く、222人。全学の約半数の人が参加したことになります。ビンゴ大会や名司会で大いに盛り上がりました。また今回は1回生の学生委員が中心となって企画を成功させました。

食堂の売上げは前年を毎月大きく上回り、利用者も大幅に増えました。前期の最終週にはリクエストの多かった「手作り野菜カレー」を復活。毎日売り切れで、みんなから愛されたメニューになりました。後期には「秋野菜カレー」として新たに復活の予定です。早く学生が元気に大学に帰ってこないかなあと待ち望む夏の日々でした。(店長 崎濱)

## 奈良教育大学生協

毎年恒例の生協学生委員会が取り組む「生協夏祭り」に行ってきました。食堂ホールでは、浴衣姿の学生委員さんがちょっぴり化粧の素敵な笑顔でなかなかの売り子ぶりでした。また、豊富なメニューに生ビールありで飲食については満足度大。しかし、ステージは少し寂しく感じました。来年は学内の音楽系サークルや県内の学生委員会との連携の輪がもっと広がればいいなあと思いました。(県連事務局 入口)



# 県連日誌

- 7/8 第10回奈良県協同組合デー  
9 改正 JAS 法説明会  
ならコープ平和の会学習会  
24 食の安全事務局会議  
25 県連責任者会議  
26 ひまわり号実行委員会  
30 奈良労済生協通常総代会
- 8/3 第18回平和のつどい  
10 2002市民共同発電全国フォーラム  
14 県議会議長懇談
- 9/4 食の安全懇談会  
6 関西消費者団体連絡懇談会  
11 近畿地区生協・行政合同会議  
17 福祉講演会  
20 県議会派懇談会  
21 あすなら祭

# お知らせ

## ● 第13回生協大会

と き 10月26日(土) 10:00~14:45

ところ 猿沢荘

内 容 基調講演・リレートーク

## ● ひまわり号列車

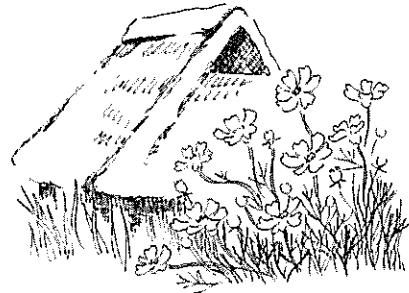
と き 11月3日(日)

ところ 太秦映画村

## ● 第2回生協・行政協議会

と き 11月14日(木) 16:00~17:00

ところ 奈良県文化会館



## 編集後記

▽古本屋で見つけたある本を読んだのがきっかけで、健康のために玄米を食べることにした。いつもの白米に玄米を少し混ぜて炊いてみると、うちの炊飯器でも結構いける。次は半量を玄米に。噛んだ時の微妙なプチプチ感が良い。調子にのって三分の二を玄米にしたところで夫からクレームが…。「健康のためには家族が楽しく食事をするのが第一」とその本には書いてあった。

(寿)

▽文明の利器・携帯電話でメール利用を始めた頃、その便利さ手軽さに感動したことを思い出す。出会い系サイトがあんなに問題になっても利用者が後をたたないのは、誰にも邪魔されない自分だけの世界、時間がなんとも心地よいのかも…。でも今回は携帯メールで簡単には立ち直れない程の衝撃に会い、又携帯メールがあったおかげで思いっきり助けられ支えられ救われ生き返ったという経験をしてみたい、とても複雑である。

(恭)

▽地球上に公正に与えられている自然エネルギー、自然エネルギーから長い年月をかけて蓄えられた化石エネルギー。化石エネルギーの支配に明け暮れた二十世紀。今世紀中には枯渇状態に。そして「環境」と調和した「開発」がどうあるべきかをテーマに「持続可能な開発に関する世界首脳会議(環境・開発サミット)」が開かれたが実施計画の懸案だった再生可能エネルギーの導入目標の合意はならなかった。

(俊)